

公明 連立 離脱

政治とカネで自民と溝

斉藤代表、高市総裁に伝達

公明党は10日、自民党との連立枠組みからの離脱を決めた。高市早苗総裁選出を受けた連立協議を巡り、企業・団体献金の規制強化や派閥裏金事件の真相解明を求めたが、溝は埋まらず、自民の不信払拭に向けた努力が不十分と判断した。政策ごとの協力は継続し、選挙協力は人物本位とする方向だ。

公明は1999年10月に自民、自立の歴史が幕を下ろす。由両党連立政権に参加。自公が下野 公明が直ちに連立を離脱すれば自民単独内閣に転落する。高市新体制

にとって打撃だ。政治状況がさらに不安定化するのとは避けられない。石破茂首相の後継を選ぶ臨時国会の召集も20日以降に遅れる公算が大きく、政治空白が長期化する。

斉藤鉄夫代表が10日、自民の高市総裁と会談し、方針を伝えた。

斉藤氏は7日、高市氏と会談し、靖国神社参拝を含む歴史認識や外国人政策への懸念を伝え、認識を共有した。裏金事件の真相解明と企業・団体献金の受け皿制限では結論に至らず、連立合意を持ち越した。

斉藤氏は8日配信のインターネット番組で、連立合意でなければ、首相指名選挙で高市氏に投票しない考えを表明していた。



自民党の高市総裁との会談を終えた公明党の斉藤代表。奥は西田幹事長。10日午後、国会